

# 甲斐市立竜王北学校 自己評価書（後期）

平成21年2月2日(月) 作成

校長 「古屋 昭彦」

記述者 職名(校長)「古屋 昭彦」

学校教育目標 「創造性豊かな心身共にたくましい子どもを育てる」

- ①自ら学び深く考える子ども
- ②心美しい思いやりのある子ども
- ③明るく健康でたくましい子ども

学校経営方針

- ・児童も教師も生き生きと活動する学校づくりに努めます。
- ・一人ひとりの児童を大切に、意欲的に学習する児童の育成に努めます。
- ・児童の心のふれ合いを深め、児童理解にたつ指導の充実に努めます。
- ・学ぶにふさわしい環境の整った美しい学校づくりに努めます。
- ・豊かな人間性を育成する教育の推進に努めます。
- ・情報化への対応を視野に入れた教育の推進に努めます。
- ・国際的な視野を持った心豊かな児童の育成に努めます。
- ・身の周りから地球規模までの環境教育の推進に努めます。
- ・家庭、地域とも連携を深め、地域に根ざした教育の推進に努めます。
- ・ボランティアの活動(含む福祉教育)の推進に努めます。
- ・社会の変化に対応し「生きる力」を育む教育課程の編成と実施に努めます。
- ・特別支援教育の推進に努めます。

## 1 全体評価

○年度初めの「学校経営方針」に基づき、具体的な方針と取り組みについて提案し、各月の教科指導、生徒指導、学校行事等について、その成果と課題を明確に捉えるため、教頭、教務主任をはじめ、各取り組みを担当する職員と連携する中、文書でまとめ、各学期の初めや中間、まとめの時期に指示伝達を行ってきた。

- ・学習、生活規律の確立
- ・子どもとの人間関係の構築
- ・保護者、家庭とのきめ細かな連絡
- ・行事を利用した学級づくり、集団づくり
- ・報告、連絡、相談、確認(さらに提案)を徹底
- ・こまめなケース会議開催ときめ細かな生徒指導
- ・子どもと教職員協働によるあいさつ運動の推進
- ・授業時数確保と教材の工夫
- ・体力テストや水泳のきめ細かな安全指導
- ・PDCA(CA)サイクルの活用と改善 等
- ・保護者、地域住民、関係機関と連携した安全対策
- ・本物体験、地域人材活用、保護者の学習支援等の推進

その結果、前期に引き続き、各月、各学期の成果と方向性や視点を明確にすることによって、「全職員の意志統一」が図れることとなり、一步一步着実に、多くの観点(項目)で肯定的な結果が得られた。しかし、下記の改善策にも見られるように幾多の課題もあり、今後も自己改革を図ると共に学校評議員や学校関係者評価委員、保護者、地域住民の方々からのご意見、ご指導もいただく中で、信頼される開かれた学校づくりに努めていくことが重要であると考えている。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・項目1・2のA「そう思う」が96%と前期に比べ、共に4ポイント上がり、項目3のAは68%から88%へと大きく20ポイント上がっている。これは、学校教育目標や学校経営方針に基づく様々な教育活動が2学期に集中し、各学級経営方針や自己観察書に掲げた具体的な取り組みが的確に実践できた結果であると考え。これは、児童アンケートの「学校は楽しいですか」の項目のA「とても楽しい」がわずかではあるが1ポイント（A・Bを合わせた肯定率90.4%）、そして、保護者アンケートの「お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う」の項目の「とても思う」も約1ポイント（A・Bを合わせた肯定率95.8%）上がっている。この結果から、学校、各学年、各学級での具現化された教育活動が、各主任を中心に調整が図られる中、児童や保護者の期待する内容で実践できたものと思う。<b>※以後、肯定率はA・Bを合わせた数値をいう。ポイントは%を表す。</b></li> <li>・項目5のA「そう思う」が前期に比べ、16ポイントと大きく上がっている。甲斐市の推進する「創甲斐教育」におけるP・D・C・A（C・A）サイクルを生かした教育活動が定着し、推進されている。特に本校では、起案形式をとり、校長、教頭、教務の指導を通してよりきめ細かいプランづくりに努めていることが、その成果の要因である。</li> <li>・項目7のA「そう思う」が前期に比べ、8ポイント上がっている。職場の福利厚生や健康管理への配慮の項目であるが、教務の補欠への的確な対応、学年間の連絡調整の徹底等が行われていることによるものである。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の項目5のA「そう思う」は、前期に比べ16ポイントと大きく上がったが、前期の32%から48%への上昇程度で5割に満たない。また、項目6の「あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。」も、前期と同じ48%にとどまっている。これは、前期の改善策として、各実践後の考察や所見を明らかにすること、検討会の実施をあげたが、これらがまだまだ十分ではないことを示している。特に中・高学年は、放課後の時間の確保が難しいことから、学年主任が学年の教育課程の計画と実施に対して、もっとコーディネートする必要がある。教務も時間の確保等において支援することも大事である。基本的には、常に報告、連絡、相談をこまめに行い、学校としての統一と全体化を図ることが重要である。</li> </ul>
II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・項目3のA「そう思う」は、前期に比べ32ポイントと大きく増え92%となった。これは、USBやFD、CDなどの記憶媒体、それに諸表簿や文書等の情報セキュリティに対する実践的態度が備わってきていることを表している。これは、常に教頭を中心に施設設備の安全管理を行い、情報セキュリティについても、終礼や職員会議において指示伝達を行っている成果である。</li> <li>・項目6の「他の教職員と相互理解や信頼関係を深めて教育活動にあたっているか」について、Aの「そう思う」が前期に比べ16ポイント上がり84%となった。これは、年度初めからの報告、連絡、相談、確認の徹底を図ってきたことにより、その態勢づくりがしっかりとできてきたからである。また、さらには、「提案」を指示したことにより、批判的な意見を言うのではなく、「こうしたらどうか」という共に考え実践していく姿勢もできてきた結果である。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・項目2の危機管理マニュアルの理解であるが、A「そう思う」が、前期に比べ4ポイント上がったが、まだ48%と大変低い（肯定率100%）。2学期の耐震工事の実施により、地震に対する意識化はできたが、火災や不審者を含め、有事の際の実践的訓練の必要を感じる。作成されているマニュアルに基づき、教職員が役割演技できる訓練の実施や講師を招いての講習ももっと取り入れていかなければならない。</li> <li>・項目4の「校務分掌は、学校運営上機能しているか」において、Aの「そう思う」が前期</li> </ul>

	<p>に比べ、12ポイント下がり60%となっている。年度末となり、年度初めからの各分掌での運営上、いくつかの課題が明確になったのではないかと。年度末の教育反省をする中で成果と課題を明確にし、改善に向けた適材適所の配置、精選とスリム化等と行っていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>項目8の「校内研究（研修）に主体的に関わっているか」において、Aの「そう思う」が前期に比べ、8ポイント下がり52%となっている（肯定率は88%）。この1年間、研究テーマ「学ぶ楽しさを実感し、確かな学力を身につける児童の育成」～算数的活動を通して考える力を育てる授業の創造～の実現に向けて、15回の校内研究会を実施し、その中で、低、中、高学年、特別支援学級のそれぞれで研究授業を行ってきた。研究会では、県教委及び中北教育事務所の指導主事の先生方にご来校頂き、「算数的活動」の意義と展開方法等について研修を深めた。しかし、全職員で研究を進めてはきたものの、「主体的」に関わる点で職員格差が生じてはいないか。「算数的活動」は新学習指導要領における基本方針の大きな柱の1つでもあるので、今後も工夫と改善を図り、確かな学力に向けた取り組みを行っていかねばならない。</li> </ul>
<p><b>Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）</b></p>	
<p>達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Aの「そう思う」の回答率をみると、前期に比べ、項目3の「基礎基本の定着を図る授業」が8ポイント、項目5の「評価規準と評価方法を明確にして授業」が20ポイント、項目7の「質問や発言が出てくる授業」が16ポイント上がっている。これは、前期でも確認されたが、「聞く」「話す」を中心とした基本的学習規律が定着していること、朝の10分間のおはようタイムでの基礎学習、校内研究での算数的活動の導入等の成果である。また、項目9と10の「きめ細かな指導」による学習意欲の高まりが8ポイント、学習内容が身に付いているかが12ポイント上昇している。これもまた、TT指導やケースに応じた支援員の配置等において、きめ細かな個に応じた対応が行われている成果でもある。児童用アンケートの項目6の「授業がわかりますか」において、Aの「とてもよくわかる」が、前期に比べ、約4ポイント（肯定率93.8%）上がり、項目5の「授業が楽しいですか」においも、肯定率が2ポイントほど上がっている。（肯定率89.6%）、また、保護者アンケートの項目11の「先生は、わかりやすく勉強を教えていると思う」も、前期に比べ、約4ポイント（肯定率93.3%）上がっていることから一步一步ではあるが、着実に学習の定着と取り組みへの理解が得られていると考える。</li> <li>宿題や家庭学習の習慣化は、学習意欲向上と共に基礎学力定着のために欠かすことのできない取り組みである。本校では、年度当初から経営方針の1つとして取り組んできた。その結果、児童用アンケートの項目12の「宿題を忘れずしていますか」で4ポイント（肯定率92.2%）、保護者アンケートの項目13の「お子さんは宿題の他にも家庭学習をしていますか」では12ポイント（肯定率47.6%）前期に比べ上昇している。今後も家庭と連携する中でさらなる定着化を図っていきたい。</li> </ul>
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>項目5の「評価規準と評価方法を明確にした授業」について、Aの「そう思う」が、前期の8%から28%へ（肯定率72%）。項目7の「質問や発言がでてくる授業」の項目においても、28%から44%（肯定率68%）へと高まったが、まだまだ低い数値である。前期の低下した原因として、評価規準と評価方法については、評価の観点や規準が教育課程にきめ細かく明記されているが、授業を行うにあたり、時間的に一人一人の実態に応じた評価の実施が難しいのではないかと。また、「質問や発言がでてくる授業」づくりはグループ活動や作業活動を伴うケースが多く、これもまた時間的に余裕がないのではないかと考えられるため、今年度、校内研究における算数的活動を通して、考える力を育てる授業づくりに取り組み、これら課題について改善を図れる理論研究と授業実践を推し進めてきたが、今後も引き続き継続していきたい。また、教職員評価制度の伴う授業観察において、授業観察の観点を示した「授業観察カード」を用いて、授業後の面談を通して授業の改善を図る取り組みも改善策として取り組んできた。その結果、児童アンケートの項目10の「授業（勉</li> </ul>

	<p>強) でわからないことがあるときは、先生に聞いていますか」の肯定率が3ポイント(肯定率77.6%)上がっていること等から、学習に対する意欲関心が高まる傾向にあることがわかる。今後、低、中、高学年において、各学年の教育課程の実施にあたり、授業内容や評価等において共に歩調のとれた運営ができるよう時間の確保を行っていきたい。</p>
<p><b>IV 生徒指導について(児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて)</b></p>	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>項目5の「職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている」について、Aの「そう思う」が、前期に比べ、8ポイント上がり、56%となっている(肯定率100%)。また、項目7の「特別支援校内委員会が有効に支援している」では、Aの「そう思う」が、前期に比べ、12ポイント上がり、80%となっている。これは、特別支援教育コーディネーターが中心となり、こまめなケース会議を開催し、短期的長期的な支援態勢を確立すると共に関係機関や保護者との対応も的確に行っている成果である。</li> <li>項目3の「生き方教育(キャリア教育)」でAの「そう思う」が28%から36%に上がり、肯定率も84%から96%へと上がっている。これは、各学年において、各教科や総合的な学習の時間との関わりで、直にキャリアとしての生き方や優れた技能を目の当たりに体験したり、各施設での本物体験をさせたりする学習が行われたからである。今後も、道徳においても様々な生き方をされている方を講師としてお迎えし、子どもたちの心に響く授業を展開していきたい。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>項目1の「児童理解のためのコミュニケーションを図っていますか」について、Aの「そう思う」が、前期に比べ、8ポイント上がり、76%となっている。しかし、児童アンケートの項目9の「こまったときに相談できる先生がいますか」の肯定率が、前期の73.7%から70.4%と、3ポイントほど下がっている。その内訳をみると、Cの「あまりいない」の数値が前期より高くなっている。これは、職員の目線と児童の思いとの相違があることを表している。よりアンテナを高くして、尚一層のきめ細かな把握と声かけが必要である。</li> <li>項目6の「児童の健全育成のために、学校・保護者・地域・関係機関との連携が図られている」について、Aの「そう思う」が、前期に比べ、8ポイント下がり36%と低い(肯定率96%)。これに合わせ、保護者アンケートの項目4の「学校は保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う」のA「そう思う」も、3ポイントほど下がり11.6%と大変低くなっている(肯定率84.7%)。AとBを合わせた肯定率は高いが、Aの評価が下がっていることは、学校側からの積極的な連携を深める声かけが求められている。</li> </ul>
<p><b>V 地域との連携について</b></p>	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>項目2の「学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っているか」について、Aの「そう思う」が、16ポイント上がり、40%となっている(肯定率92%)。これは、日頃のこまめな電話連絡や連絡帳の活用、便りを利用しての情報発信を通して、職員間において、子どもたちの様子についての情報交換がおこなわれているからだと考えられる。</li> <li>項目3の「保護者や地域への情報発信」についても12ポイント高まっている(肯定率96%)。学校だよりや学年、学級だよりによって、子どもたちの活動の様子及び学校や教職員の願いを積極的に伝えることを継続的に実施した成果である。</li> <li>Aの「そう思う」の回答率をみると、項目5の「保護者は、PTA活動に協力的である」が32ポイント、項目6の「地域・保護者は、児童の安全確保に努めている」が24ポイント、項目7の「保護者は、学習指導や生活指導に協力的である」が20ポイントと共に大きく上がっている。これは、教職員と保護者とのコミュニケーションがとれ、互いの連絡調整や協力態勢ができてきているからである。教科、生活科、総合的な学習の時間での校区探検での引率、授業への支援、本物体験等を積極的に行ったことは、地域や保護者との連携を深めると共に教育活動への理解につながったものと思う。また、年度初めの一年生のお迎え当番、毎朝の旗振り当番、各地区の</li> </ul>

	<p>安心安全を守るボランティアの方々等、日常における子どもたちを見守る態勢が年間を通してできたことは大変素晴らしいことである。</p>
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・項目8の「学校評議員制度や学校関係者評価委員会の話し合いの結果が学校教育に生かされているか」のA「そう思う」が、前期と同じ40%である。また、保護者アンケートの項目19の「学校評議員制度を知っていますか」は、肯定率が前期の28.9%から後期は38.4%と10ポイントほど上がったが、まだまだ大変低い状況である。しかし、この10ポイントの上昇は、学校だよりで、制度そのものを説明したり、評議員さんが授業参観している様子を紹介したりした成果だと感じる。今後も、機会あるごとに紹介したり、多くの方々からご意見を伺ったりして、よりよい学校経営に生かしていきたい。</li> <li>・保護者アンケートの項目14の「お子さんは、相談できる友達がありますか」の肯定率が5ポイントほど上がり、71.5%。項目15の「お子さんのことで、相談できる先生がいますか」の肯定率も3ポイントほど上がって、74.5%である。しかし、Aの回答率が、ともに5%台と大変低いことから、保護者や地域住民にとって、子どもたちや教師の姿が見える教育活動を更に展開することや子ども自らが、日常の出来事を言葉等で伝えられる表現力向上への取り組みも大事であると考えます。</li> </ul>
<p><b>VI 学校の特色に関して</b></p>	
<p>達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・項目3の「読書活動」への指導において、A「そう思う」が、12ポイント上がり、92%となっている（肯定率100%）。これは、「落ち葉読書」などの取り組み、感想文の掲示等による読書環境の整備、表彰による啓発、委員会児童や読み聞かせボランティアによる朝の「読書タイム」の実施等、日常において、読書活動の推進が行われた成果である。</li> <li>・項目8の「音楽広場」の肯定率は100%である。保護者のアンケートにおいても、項目21の「学校は合唱活動に力を入れて取り組んでいると思う」のA「そう思う」の回答数が他のBCDEに比べ最も多い（180名）。これは、音楽広場の実施、日常の歌声活動を総集し、多くの方々に参加していただいている音楽会、意欲的な吹奏楽活動の成果である。（◎24の質問項目で最もAの回答数が多かったのは、項目10の「朝ご飯を食べて登校しますか・・339名」と項目12の「宿題を忘れずにしていますか・・255名」の3項目である。※回答総数389）</li> <li>・項目7の「体育の広場は効率的に実施され、児童に有益である」のA「そう思う」が、48ポイント上がり、前期の8%から56%と大きく上がっている。これは、2学期から竜北体操、縄跳び運動、竜北マラソンが行われ、子どもたちの体力向上への取り組みが本格化したためである。児童会や縦割り活動とも連動して行われたのも効果的であった。しかし、保護者アンケートの「学校は体育活動に力を入れて取り組んでいると思う」のA「そう思う」が、13.7%と低い（肯定率76.1%）ので、今後は、1学期からの取り組みを定着させ、年間を通して日常的な体力づくりを行うことが必要である。</li> <li>・項目8の「10分間タイム（おはようタイム）が効率的に機能している」のA「そう思う」も、16ポイント上がり、前期の64%から80%と大きく上がっている。これは、毎朝の10分間タイムが、基礎基本の定着を図るスキル学習の時間、読書タイム、音楽広場のそれぞれが有効的に活用されているからである。</li> <li>・児童アンケートの項目24の「たてわり活動（行事）にがんばりましたか」のA「そう思う」が、約4ポイント上がり、前期の69.5%から73%と上がっている（肯定率97.3%）。これは、運動会等の学校行事だけではなく、業間などの縦割り活動が、子どもたちにとっての満足感や達成感に結びついているものと思う。従って、本校の特色の教育活動としての取り組みの原点の1つとして捉えておきたい。</li> </ul>

### 3 まとめ

#### 〈成果〉

- 学校教育目標や学校経営方針に基づく様々な教育活動が各学期ごとに行われ、各学年・学級経営方針や自己観察書に掲げた具体的な取り組みが的確に実践できた。
- 甲斐市の推進する「創甲斐教育」におけるP・D・C・A（C・A）サイクルを生かした教育活動が推進された。特に本校では、起案形式をとり、校長、教頭、教務の指導を通してよりきめ細かいプランづくりに努めていることがその成果の要因である。
- 「聞く」「話す」を中心とした基本的学習規律が定着してきている。朝の10分間のおはようタイムでの基礎学習、校内研究での算数的活動の導入等の成果である。また、TT指導やケースに応じた支援員の配置等においても、きめ細かな個に応じた対応が行われた。
- 宿題や家庭学習の習慣化も推進されている。学習意欲向上と共に基礎学力定着のために欠かさずこのできない取り組みである。
- USBやFD、CDなどの記憶媒体、それに諸表簿や文書等の情報セキュリティに対する実践的態度が備わっている。これは、常に教頭を中心に施設設備の安全管理を行い、情報セキュリティについても、終礼や職員会議において指示伝達を行っている成果である。
- 年度初めからの報告、連絡、相談、確認の徹底を図ってきたことにより、その態勢づくりが構築され、相互理解や信頼関係を深める教育活動へと繋がった。
- 特別支援教育コーディネーターが中心となり、こまめなケース会議を開催し、短期的長期的な支援態勢を確立すると共に関係機関や保護者との対応を的確に行うことができた。
- 各学年において、各教科や総合的な学習の時間との関わりで、直にキャリアとしての生き方や優れた技能を目の当たりに体験したり、各施設での本物体験をさせたりする学習を行うことができた。
- 教職員と保護者とのコミュニケーションがとれ、互いの連絡調整や協力態勢づくりが推進されている。教科、生活科、総合的な学習の時間での校区探検での引率、授業への支援、本物体験等を積極的に行ったことは、地域や保護者との連携を深めると共に教育活動への理解につながった。
- 年度初めの一年生のお迎え当番、毎朝の旗振り当番、各地区の安心安全を守るボランティアの方々等、日常における子どもたちを見守る態勢が年間を通してできた。また、情報提供やメール配信もこまめに行うことができたことは、児童の安全確保へと繋がった。
- 落ち葉読書、感想文の掲示等による読書環境の整備、表彰による啓発、委員会児童や読み聞かせボランティアによる朝の「読書タイム」の実施等によって読書活動の推進が行われた。
- 音楽広場の実施、日常の歌声活動を総結集した音楽会、意欲的な吹奏楽活動は、情操教育の一環として大きな成果をあげることができた。
- 竜北体操、縄跳び運動、竜北マラソンを行い、子どもたちの体力向上へと繋がった。児童会や縦割り活動とも連動して行われたのも効果的であった。

#### 〈課題〉

- 低、中、高学年において、各学年の教育課程の実施にあたり、授業内容や評価等において共に歩調のとれた運営ができるよう時間の確保等、場の設定を行っていく。
- よりアンテナを高くして、尚一層のきめ細かな児童把握と声かけを行うと共に学校側から保護者や地域の方々に対し、積極的な連携を深める声かけを様々な方策で行う。
- マニュアルに基づき、火災、地震や不審者等、有事の際の実践的訓練において、教職員が役割演技できる訓練を実施する。
- 保護者や地域の方々にとって、子どもたちや教師の姿が見える教育活動を展開することや子ども自らが日常の出来事を言葉等で伝えられる表現力向上（言語活動）への取り組みを行う。
- 学校評議員制度や学校関係者評価委員会について、その役割やご指導頂く様子をより多くの機会を通して伝えていく。

